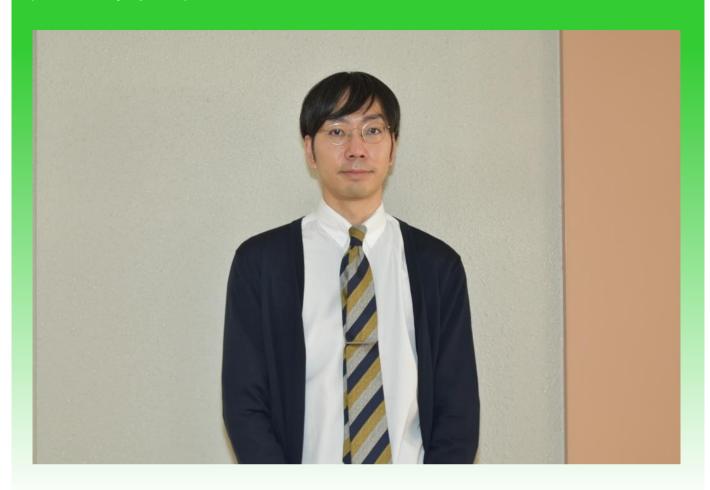
# 社会環境系



## 地域に向けてひとこと

オホーツク地域の河川、沿岸域の防災関連、水産 関連での様々な課題に対して、当研究室の知見、 技術がお役に立てれば幸いです。まずはお気軽に ご相談ください。

## 白井 秀和

Shirai Hidekazu 准教授 • 博士(工学)

## 地域に向けてできること

訪問講義







科学・ものづくり教室







#### 研究室見学







総合防災実験棟での実験設備の紹介 河川・海域の数値シミュレーション の紹介

#### 技術相談

- 河川、湖沼、海域での流れや波浪の 数値シミュレーション
- 数値シミュレーション
  ・河川、湖沼、海域での流れ、波浪に
  関連する課題

## オホーツク海沿岸域を対象とした流動予測モデルの開発

### 研究分野

●社会基盤

●環境

## 研究キーワード

河川・海洋の流れ、波浪、数値解析

SDGs

































## 概要

沿岸域では、潮の満ち引きなどによる流れ、風による波など、様々な水の流 れや波の現象が見られます。これらの流れや波が生み出す環境は、多種多様な 生物の棲み処となり、水産業など人々の活動の場となります。このような生 物、人間の活動を支える沿岸域の環境に対して、近年の地球温暖化やそれに伴 う豪雨、台風の激甚化・頻発化による影響が懸念されています。このような影 響は、生物環境を変え、生態系に変化をもたらす可能性があります。人間活動 を支える場としての観点からは、高潮・津波に対する防災対策の強靭化、水域 環境が変化するなかでの水産業の安定化・効率化が求められます。また、オ ホーツク地域の沿岸域では、海氷の減少に伴う波浪や流れの変化による影響が 懸念されており、地域に特化した課題に対応していく必要があります。このよ うな課題に対応した流れや波浪の予測モデルを開発することで、各課題に取り 組む際の有用な知見を得ることが期待できます。

## アピールポイント

- 沿岸域の地形を高解像度で再現できる海洋モデル(FVCOM)の適用
- 課題に応じた各種モデルの構築(例、幼生の移動モデルの導入)

